

2021年3月31日

「道徳性・向社会性」分科会 令和2年度活動報告

「道徳性・向社会性」分科会代表

横浜市立大学 長谷川真里

活動報告

日本発達心理学会第32回大会にて、以下のようにラウンドテーブルを企画した。オンラインでの実施であり、参加者は50名以上となった。

RT タイトル「情動的コンピテンスの発達：道徳性・向社会性の発達研究との接近」

企 画：	長谷川真里	(横浜市立大学)
司 会：	越中康治	(宮城教育大学)
話題提供：	浜名真以	(東京大学)
話題提供：	森野美央	(長崎大学)
指定討論：	篠原郁子	(国立教育政策研究所)

[企画主旨]

近年「社会的な知性」のなかでも情動的コンピテンスあるいは情動的知性と呼ばれる能力に注目が集まっている。Saarni et al. (2006) によると、情動的コンピテンスとは、「1 自身の情動に気づきその意味を受け取り調整する力、2 他者の情動に気づき共感的に理解し関わる力、3 自他の中で情動のコミュニケーションを適切に展開する力」のことである。本 RT では、道徳性・向社会性の発達と情動的コンピテンスの関係について、概念整理を試みながら探ることを最終的な目的とする。そのために、感情の理解やそれを支える要因について精力的に研究に取り組んでいる研究者からの刺激的な研究成果を発表いただく。

また with コロナ時代における子どもの育ちや子育ての在り方についても議論いただいた。

[話題提供のタイトル]

話題提供 1 「子どもの感情語彙発達と母親からの言語入力」 浜名真以 (洗足こども短期大学・東京大学)

話題提供 2 「集団場面における外在的情動調整：年長時と小1時を比較して」 森野美央 (長崎大学)

以上